

スラブ上面接合における



実験前提条件

本試験は、耐火二層管協会内の耐震技術に関する学識経験者が参加した「耐震対策委員会」により、平成8年春にまとめられた試験方法に基づいて試験いたしました。

KST-Sをスラブ上面接合した場合の耐震性能について、排水立て管に JIS G 5525 RJ 鑄鉄管を使用した場合、および受口付き耐火パイプ TP-R を使用した場合について、層間変位角に対する変形追従性能を試験しました。

試験方法

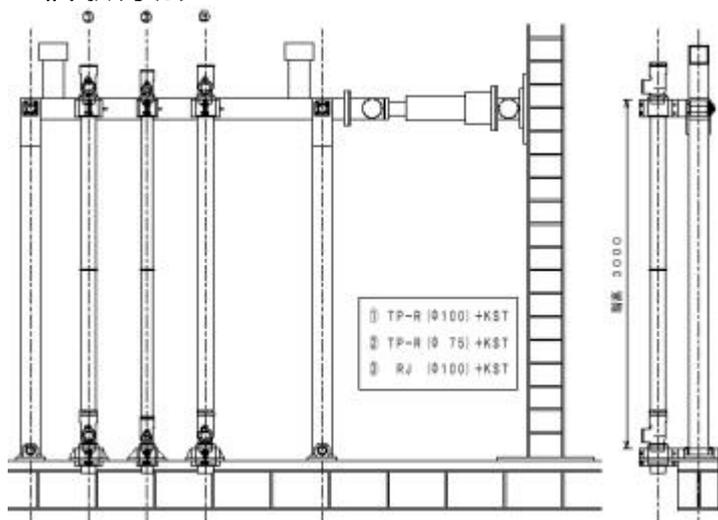
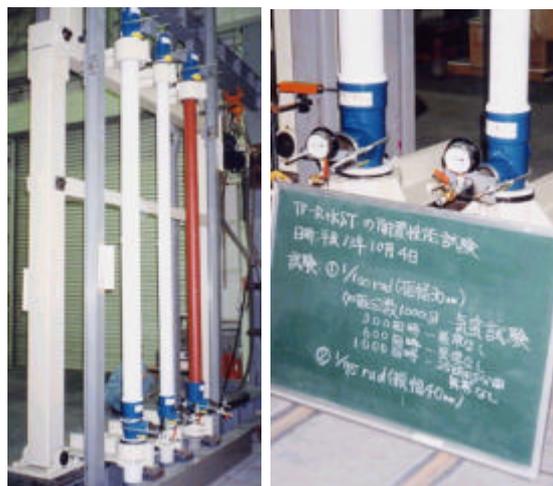


図 1 試験体取付用鋼製フレームと加振装置



加振装置 気圧試験
 耐震性能試験の状況を動画でご覧いただけます。(約 0.6MB)

スラブ上面接合においてはスラブに埋め戻しされて固定端となるべき、排水立て管の上部立て管受口を、図 1 に示す試験体取付用鋼製フレームに堅固に固定したうえで、実際の施工状態と同じように KST-S を配管しました。

階高を 3,000mm とし RJ 鑄鉄管および受口付き耐火パイプを 1 スパン分配管し、上階スラブに相当する部位を油圧サーボ振動試験機に直結した加振フレームに固定しました。

層間変位角を 1/100 と設定し、加振フレームに振動数 1Hz の正弦波の動的加振を 1000 回加え、配管の破損・損傷の有無およびそれらに起因する漏れの有無を、気圧試験により確認しました。

注 1：層間変位角は S 造で 1/100、SRC 造・RC 造で 1/200。

注 2：階高 3,000mm で層間変位角 1/100 とした場合の振幅は 30mm。

注 3：気圧試験は 35[kPa] の空気圧が 15 分間低下しないこと。

試験結果

TP-R：浅野受口付耐火パイプ
 RJ：JIS G 5525 排水用鑄鉄管

供試番号 1	受口付き耐火パイプ TP-R 100 + KST-S100 × 80	破損・漏れなし
供試番号 2	受口付き耐火パイプ TP-R75 + KST-S80 × 50	破損・漏れなし
供試番号 3	RJ 鑄鉄管 100 + KST-S100 × 80	破損・漏れなし

関連リンク

新発売 KST-S 2 方向タイプ 雑排水専用は、[こちら](#)
 KST-S 1 人で施工できます！は、[こちら](#)
 スラブ上面接合における立て管の裁断長は、[こちら](#)



KST-S 2 方向型パンフレット発行
 ご要望の方は e-mail でお申し込み下さい。

TP-R のご紹介

株式会社 A&AM 〒105-0012 東京都港区芝大門 2-12-10 浅野ビル 4F

TEL03-3434-8305 FAX03-3434-8480

URL：<http://www.aa-material.co.jp> e-mail：mt257007@aa-material.co.jp

